

事業の基礎情報

実施主体	大山崎町
事業実施地域	大山崎町全域
共創の種類	他分野共創
他分野共創の種類	福祉・その他（買い物）
共創パートナー	大山崎町社会福祉協議会（福祉）、大山崎町商工会（買い物）
運行形態	無償運送
運行主体	大山崎町

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

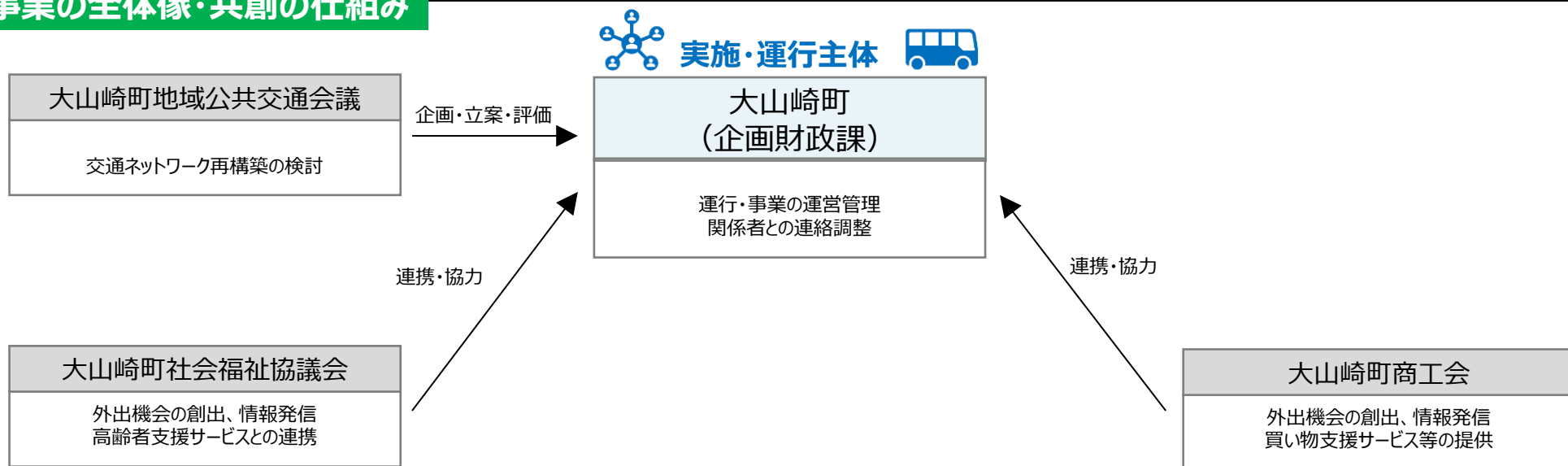
大山崎町では、単身高齢者の増加が見込まれ、車で移動することができない高齢者を中心に買い物等に不便が生じている中、町域内を運行する路線バスの一部が廃止になることを受け、廃止となった場合に町域内の移動手段はタクシーのみとなるため、効率的な公共交通ネットワークの構築が喫緊の課題となっており、買い物等の日常的な移動の利便性を向上させ、地域公共交通を維持させるために町域内を運行する新たな交通ネットワークの導入を検討する。

また、移動ができないことで地域とのつながりの希薄化が懸念される中、地域で元気に暮らし続けられる環境が求められており、移動の利便性向上だけでなく、地域福祉の充実に向けての視点も踏まえて検討する。

（事業の概要）

今年度中に路線バスの一部が廃止となり、町域内の地域公共交通の維持が困難な状況になるため、新たな交通ネットワークの構築によって、これまでの路線バスではカバーできなかった需要に応えるために、共創パートナーと連携することにより、福祉や買い物支援など、これまで以上に利便性の向上を図る。その手法としては、現在、町が運行する町施設の送迎バスを拡充し、施設利用者以外も利用を可能とすることに加えて、路線を新設し、商業施設等も停留所に加えるなど、住民が求める交通ネットワークの在り方について調査を行った上で、実証運行を行う。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

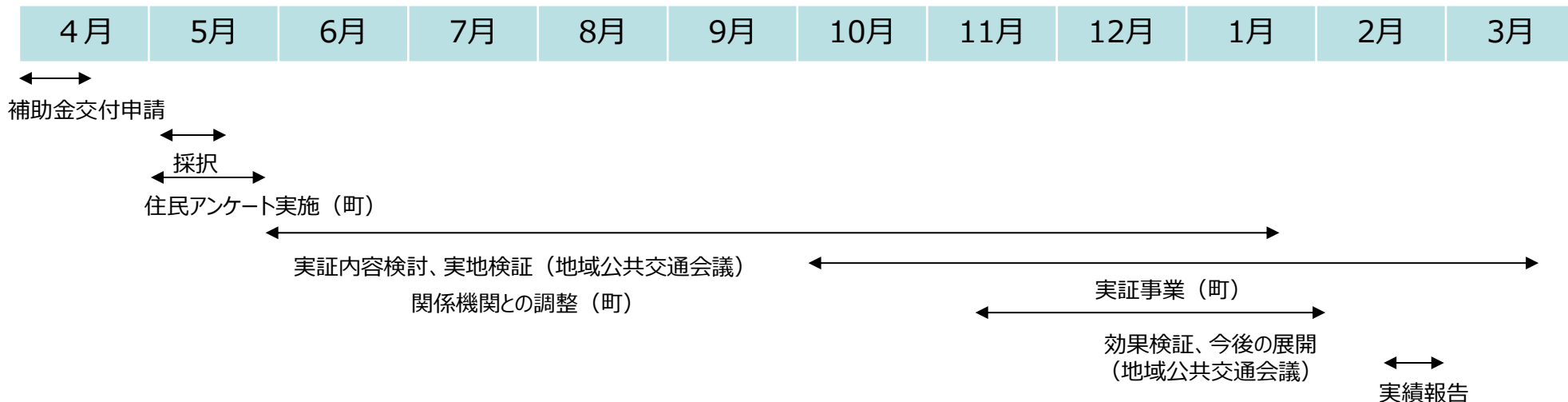
新たなネットワークを構築し、継続的に維持していくためには、利用者の確保が重要であり、町が主体となって様々な機会を利用し、その周知を図るとともに、公共交通を活用した外出の機会創出に向けて、福祉や買い物支援に対して町が運行主体となる交通などが協働し、日常的な利用が考えられる商業施設などと連携し、取り組んでいく。

(実証事業により見込まれる効果)

令和元年度に町が住民を対象に行った調査では「バス交通の便利さ」の満足度について、約60%が満足していないという結果となっており、利便性の高い交通ネットワークを構築することでその数値の改善が見込まれる。また、現在、路線バス利用者の多くは高齢者であることから、新たな交通ネットワークを構築することにより、高齢者の外出の機会を創出することで、高齢者の健康維持が期待され、町が今年度掲げる重点施策の1つである「健康のまち」を推進する効果が見込まれる。併せて、福祉事業者と連携し、外出意欲が高まるイベント等の情報を発信し、人との繋がりの機会を創出することにより、高齢者の孤立を防ぎ、健康寿命の延伸に繋がると期待する。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)



(補助事業実施後の予定)

町の施策として事業を実施していく必要があるため、資金については、町が負担することで持続化を図る。また、買い物以外にも、医療機関等、対象となる施設を増加し、さらなる関係者との連携も検討を進め、利便性の高い継続的な公共交通ネットワークを構築することで、恒常的な施策となるよう目指していくとともに、車両の位置情報の提供やキャッシュレス決済などのデジタル化の推進についても検討していく。